

令和3年度 学校評価における自己評価について

学校法人翔英学園 認定こども園みずほ幼稚園

1 教育理念

本園は教育基本法、学校教育法に基づき、幼児の望ましい経験を通して心身の発達を図り、豊かな人間形成の基礎を築くことを目的とする。

2 本園の教育目標

明るく、元気で心身共にたくましい、人間性豊かな子どもを育てる。

3 めざす子ども像

1. 明るく伸び伸びと行動し、心身共に健康でたくましい子
2. 園生活を楽しみ、身近な人に愛情や信頼感を持つ子
3. 身近な環境に親しみ、好奇心や探究心を持って関わり、よく考える子
4. 感じたことや考えたことを自分なりに表現し、豊かな心を持つ子

4 本園の特色

1. 自然の中へとび出す保育
2. 元気な体をつくる保育
3. 温かい手づくり保育
4. 友だちをいっぱいつくる保育

5 本年度の教育重点目標

○明るく伸び伸びと行動し、心身共に健康でたくましい子

- ・楽しく体を動かす。(0歳)
- ・進んで体を動かそうとする。(1歳)
- ・体をいっぱい使って元気に遊ぼうとする。(2歳)
- ・体を動かすことを喜び、いろいろな遊びを楽しもうとする。(年少組)
- ・体を十分に動かし、苦手なこともやってみようとする。(年中組)
- ・健康な生活リズムを身に付け、自信を持ち意欲的に行動しようとする。(年長組)

6 園が重点的に取り組む目標

- ・乳幼児の保育・教育の環境構成や教材の研究に積極的に取り組み、専門性を高める。また、預かり保育の環境と保育時程について定期的に見直し、長時間保育の生活リズムや心身の状態に配慮をしていく。
- ・0・1歳児の遊びを重点的に取り上げ、少人数での遊びや、屋外での遊びの環境設定を工夫し、研究する。また、園全体の中で、0、1歳児とどのようなかわりが出来るのか、子どもの様子を見とりながら考えていく。
- ・保育の質の向上に向けた課題に組織的に対応するため、保育内容の改善や役割分担の見直し等を取り組むと共に、それぞれの職務内容に応じて、知識及び技能を身に付けていく。
- ・職員間の連携、園内研修や会議について、取り組み内容を明確にして、有効的な会議の進め方、実践と評価、課題について検討を行う組織を構築する。
- ・コロナ禍で感染対策に努めながら保育・教育、行事の取り組みについて、随時検討して進めていく。

7 評価項目の達成及び取組み状況

教育・保育内容の充実	評価	取組
園の教育理念・教育目標・方針に沿って教育課程が編成され、それを基に年間指導計画を作成し、月週案を随時評価し見直している。	A	年間指導計画、月週案を見直し、保育計画を立案し実践している。今年度から振り返りシートでその日の保育を振り返り、次の保育に活かして展開している。
認定こども園教育・保育要領の内容を理解し、0歳児から就学前までの子どもの発達状況に即した指導が行われている。	A	子どもの実態や発達に応じた内容で保育・教育を実践している。今後も発達の連続性を考慮した保育を検討、実践していきたい。
職員間の共通理解のもと教育・保育にふさわしい生活環境の工夫・見直しを行っている。	A	それぞれの学年では共通理解のもと環境設定を行っている。今後もさらに職員間で話し合い感染対策も含め園児に良好な環境を提供していく。
季節ごとに植栽を行い、園内の自然環境の充実を高め、保育の中にも活かし豊かな体験活動を行っている。	A	年齢によって取り組みが異なったが、季節の野菜を畑で栽培し家庭に持ち帰り食育につながったと思われる。植栽の世話や手入れについて保育活動の中に一層積極的に取り入れるように考えていきたい。
日常の保育や行事において、学年・縦割りグループ等を編成して、異年齢の園児同士が関わる活動を工夫している。	B	外遊びや自由遊びで異年齢のかかわりがみられた。子どもの育ちにつながるよう援助を心がけるようにしていった。 コロナ禍で例年より縦割り活動に制限や中止があった。今後も日ごろの何気ないかかわりを大切に育てていきたい。
特別支援教育において、特別支援専門機関や家庭との連携を図り、個別の支援計画・指導計画を作成し適切な支援を行っている。	A	気になる園児は職員間や家庭と連携をとるようにしている。必要であれば専門機関へつなぎ、個々にふさわしい支援体制を作っている。小児科や県の療育センター等の他、発達支援施設の情報を収集して、ふさわしい支援を計画的に組み込んでいくようにする。
地域で支える幼児教育の推進		
散歩や園外保育を通し、地域の人や自然と触れ合う機会を設けている。また、地域の行事に積極的に参加し、交流や文化等に興味・関心を持たせている。	A	年齢に合ったコースで散歩を多く取り入れるようにした。地域の自然や季節の移り変わりに五感を通して感じる機会となっている。 公共の施設や公園に出かけた。地域の方と交流もすることで地域に伝わる昔話や施設に関心を持つ機会となった。
子育て親育ち支援の充実		
保育参観・家庭訪問・個人懇談・HP等を通し、保育の内容や情報を提供し、保護者の意見や要望等も受けやすくしている。	A	毎日の送り迎え時や連絡ノートを活用して園での様子を伝え、家庭の要望にも対応している。今年度もコロナ対策で保育参観はできなかった。ブログの更新や写真屋さんに行事や保育の様子を撮ってもらうことで、保護者の方へ園での様子が少しでも伝わるように工夫をした。また、クラスだよりでも写真にコメントを載せたドキュメンテーションを作成して、子どもたちの遊びや成長を伝

		えられるよう工夫した。玄関にも掲示して他学年の保護者にも園の教育・保育が伝わるように努めた。
連絡ノートを活用し、園や家庭での様子を伝え合い、子どもの成長を共通理解している。	A	連絡ノートを活用して子どもの育ちを伝え家庭と共有するようにしている。送迎時にも話しかけて、保護者の気持ちに寄り添い子育ての相談にも応じている。
未就園児親子参加の体験教室「はらっばくらぶ」を実施し、幼稚園の活動の疑似体験や、子育て講演会・相談を行い、子育て支援の取組を行っている。	A	今年度は、毎回親子 15 名に限定した企画で「はらっばくらぶ」を行った（初回の方を優先）。コロナ禍ではあったが、感染対策に協力を得ながら季節の遊びやおやつを提供し、子育て支援につながったと思われる。
預かり保育(早朝・延長保育)の運営体制を整え、カリキュラムを基に預かり保育の充実を図る。	A	預かり保育の利用が多い中、安心安全に過ごせるように配慮し、遊びの教材も季節や年齢を考え環境設定を工夫している。
小学校教育との連携		
地域の小学校の先生や校長先生との連絡会を通し教育活動の進捗状況や子どもの姿について教職員が情報共有できる場を設け実践している。	A	地域の小学校の校長先生と連絡会を通じて情報を共有している。コロナ禍ではあるが、可能な限り年長児の学校体験ができる機会を作ることができた。
アプローチカリキュラムを基に、就学に向け幼小連携を意識しスムーズに移行できるようにしている。	B	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をイメージして保育実践を行っている。日々、月、学期ごとに保育の反省評価を行い、課題を見つけ解決に努めている。
幼稚園と小学校のお互いの行事を連絡し合い、交流の場が出来るようにする。	B	就将小学校の発表会を見学、同校の先生の来園を受け、模擬授業体験をすることができた。入学前に見学や体験をすることによって小学校を身近に感じ期待感を膨らませることができている。
保育者の資質向上		
教職員全員が園児の情報を共有し、共通理解を持ち適切に対応している。	A	0, 1 歳児と以上児との情報共有は難しいことがあった。終礼での内容を職員が把握できるようにして、保育の上での連携を図りやすくしている。園で得た個人情報適切に処理をしている。
園外研修に参加する機会を確保し、職員の資質向上に取り組む。研修会参加後に情報共有し、内容を共通理解していく。	A	今年度はオンライン研修が充実しており、積極的に参加することができた。研修内容の共有（園内研修）もできる範囲で実施できた。
安全管理		
危機管理マニュアルを基に防災計画を作成し適切に実施している。	A	年間の防災訓練計画を立てて計画的に実施できた。実施後には課題や改善点を次の訓練に活かすようにしている。
職員が定期的に園内外の遊具の点検をし、安全管理の徹底を心がける。職員が日頃から、安全教育に関心を持ち、安全対応能力の向上に繋がるようにする。	A	マニュアルを基に定期的に園内外の遊具の点検を行っている。自由遊び中や日常的に子どもが安全に遊び生活ができる視点で日々保育を行っている。

8 総合的な自己評価(結果)

結 果	理 由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でいろいろなことが制限される中、感染対策を行い、できることを工夫し保育を行った。遊びの偏りやマンネリ化があったので職員間で情報を共有し、保育内容を検討し合えるようにしていきたい。また、マスク生活で表情や感情が伝わりにくく、コミュニケーションが取りにくいことがあったので丁寧なかかわりを心がける。 ・長時間保育の園児が多く、早朝・夕方は通常の保育時間とのメリハリをつけた内容で、体も心もゆったりと過ごせるようにした。上学年では遊びの内容を工夫して穏やかに過ごせるようにしたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の課題として、コロナ禍のため保護者に園の様子が伝わりにくいという課題があった。感染対策として今年度も参観日を控えることとなった。そこで玄関に、保育中の写真やドキュメンテーションの掲示、ブログの更新をするよう心がけた。また、園外保育等には写真屋さんに行きしてもらい、その写真を販売して、園での様子がより伝わるようにした。今後も可能な限り情報提供していきたい。

9 今後取り組むべき課題

<ul style="list-style-type: none"> ・重点目標を達成するため、取り組みや保育を常に振り返り、改善点について職員間で検討する。職員研修に積極的に参加し、新しいものを取り入れ、より良い保育・教育を目指していく。 ・コロナ禍で制限があり、異年齢とのかかわりや保護者との連携が取りにくい状況が続いた。今後も先が見えない状況の中で、課題を解決しながらより良い保育に取り組んでいきたい。
--